

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
106-73	高等学校	理科	生物基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	生基 061-902	i 版 生物基礎 改訂版		

1. 編修の基本方針

予測困難な時代にあって、我が国の高校生は、様々な変化に向き合い、自ら考え、他者と協働して課題を解決できるようになることが求められている。自然や身近な生命現象はもとより、複雑な現代の課題に対しても、科学的に探究できる力を身につけることは、社会にとって必要であるとともに、生徒自身の興味や知識を豊かにする上でも重要である。これからの社会の急速な進展や変化に十分に対応し、主体的に学び、考える人間を育成することが、高等学校の教育が担うべき重要な役割であると考えている。

このような状況を踏まえ、以下の3点を編修の基本方針とした。

(1)生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図りながら、知識及び技能を身につける。

扱う内容や記述などは、日常生活や社会との関連を図りながら、生徒の関心を広げることができるように配慮した。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけられるようにした。

(2)思考力、判断力、表現力等を働かせながら、科学的に探究する力を養う。

問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの方法を学び、報告書を作成したり発表したりする力を育てられるようにした。

(3)生物に対しての気付きから課題を設定し解決しようとする気持ちを大切にする。

生物や生命現象に対して生徒が主体的に考え、学ぼうとする気持ちを大切にしながら、学習を進められるようにした。また、教師が生徒の主体的な学習を促すような授業を展開しやすい教科書を目指した。

2. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	○実生活における活用や論理的な思考力の基盤となる基礎的な知識・技能の確実な定着を心がけた。 ○探究的な流れを通して、科学的な見方・考え方を働かせるようにした。 ○医学や化学へつながる知識や技術を紹介した。	全体 全体 (p.25, 70, 88, 89, 他)
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	○「学ぶ前に Try!」や「考えてみよう」で、個々の価値を尊重しながら、その能力を伸ばし、創造性を培えるようにした。 ○「問い」で、自主及び自律的に学習に臨めるようにした。 ○「TOPIC」で、日常生活や社会に関連した話題を幅広く紹介した。 ○「人類の課題に挑む人々」で、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようにした。	(p.14, 16, 18, 他) (p.16, 18, 20, 他) (p.103, 112, 130, 他) (p.15, 49, 93, 157)
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	○個々が責任感をもって探究活動や観察・実験を進められるよう、手順を丁寧に示した。注意・安全マークを用いて、安全上の注意喚起をした。 ○男女の役割を固定せず、学習を進めていくことができるように配慮した。 ○フォントは視認性と可読性の高いUDフォントを採用した。デザインや配色は、色覚の個人差を問わず、より多くの人に必要な情報が伝わるよう心がけた。	(p.6, 7, 101, 他) 全体 全体
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	○生命を尊ぶ態度を養うために、生命倫理の重要性を取り上げた。 ○現代の人間生活の課題解決への取り組みの例として、SDGsを取り上げた。 ○マイクロプラスチックや、保全、絶滅危惧種、地球温暖化、生態系サービス、環境アセスメントに関する話題を取り上げた。 ○「生物図鑑」で、身近な環境や世界中に生息する多様な生物種を紹介した。	(p.6) (p.4, 15, 49, 93, 157) (p.199, 202, 203, 206, 208, 209) (p.172-175, 178-179, 190, 200, 203)

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	○伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するという観点から、我が国のノーベル賞受賞者をはじめとする科学者を挙げた。 ○他国を尊重するという観点から、海外の科学者を挙げた。 ○他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うという観点から、外国語を積極的に掲載した。	(p.8, 62, 88, 138, 139, 他) (p.22, 52, 53, 54, 71, 他) 全体
---	--	--

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(全般)

○文章は平易ながらも丁寧に書き、結論が明解になるように配慮した。

(内容の配列と系統化)

○該当箇所には「中学の復習」を設定して、学習内容のつながりを重視した (p.18, 20, 34, 他)。

○教科書全体を通して、探究の流れを学習できるように、「序章」では探究の進め方の基本事項を学習するようにし、その後、大隅良典博士の研究を紹介して具体的な探究の進め方を学習できるように配置した (p.6-8)。

○生物基礎の内容を探究的に学べるように、各節には「問い」を設定した。「問い」を設定することで自ら課題を設定し解決しようとするように誘導している。各節の終わりには「まとめ」を掲載し、「問い」と対応させるようにした。

○「探究」では、学習内容についての資料や観察・実験を、探究の流れにそって掲載し、考えを深められるようにした。「探究」で深めた考えや関心をもとに基本的な概念や原理・法則の理解を探究的に学べるように学習内容を配列した (p.17, 19, 35, 他)。

○主要な概念を理解させるための指導において重要となる 249 語の重要用語を選定し、その用語を中心に思考力を発揮しながら理解できるように構成した。重要用語については、平成 29 年に日本学会議から出された報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定」も参考にした。各節の終わりには「重要用語」として用語をまとめて再掲載し、理解すべき主要な概念を明確に示した。

○上記の「探究」とは別に、教科書の各所に「資料学習」を設定した。これは「探究」を補足し、観察・実験を疑似的に学習することをねらいとしている。科学的な見方・考え方を働かせ、学習内容を理解し、効率的に技能を学べるように設定した (p.13, 39, 61, 他)。

(日常生活や社会との関連)

○巻頭では、世界の動物を話題に取り上げ、学習内容に興味をもち、見通しを立てて学習できるようにした (前見返し・p.1)。

○「TOPIC」では、豆知識や日常生活、医療、社会、科学史との関わりを扱い、学習内容と関連した話題を取り上げ、興味・関心を大切にするとともに、生物学が日常生活を豊かにする有用な学問で

あることを示した (p.18, 22, 103, 他)

- 最新の研究内容を紹介し、生物学の発展が医療などの身近な分野に活用されていることを明示した。生物学が社会をよりよく変えられる有用性の高いものであることを紹介する一方で、それらの技術の利用には留意する必要があることも掲載した (p.88, 89, 142)。
- 「人類の課題に挑む人々」では、職業及び生活と関連のある取り組みを紹介し、「生物基礎」の学習内容が将来の自分のやりたいことについて考える機会となるように工夫した (p.15, 49, 93, 157)。

(図表作成およびレイアウト上の留意点)

- すべての読者に必要な情報が伝わるデザインを目指し、カラーバリアフリーに対応したデザイン・配色に配慮した。色覚特性に配慮してデザインするというだけでなく、調和のとれた秩序ある色彩設計とし、伝えたい情報が的確に伝わるように工夫した。

(学習内容の定着)

- 太字で示した用語には必ずルビをつけるなどして、確実に読み進めて主体的に学習することができるように配慮した。
- 英語の情報源を活用できる力をつけられるように、用語については可能な範囲で対応する英単語も掲載した。
- 「なるほど」を随所に設定し、間違いやすい内容を正しく理解するポイントを示した (p.35, 50, 114, 139, 他)。
- 「アドバイス」で、図・表・グラフの読み取りに必要な技能を示した (p.125, 143, 他)。

(主体的・対話的な学習場面の充実)

- 単元導入の「学ぶ前に Try!」と同じ問いかけを、単元末には「学んだ後に Retry!」として設け、学習をふり返り、自己評価することにより、習得したことを確認し、学びの深まりを実感できるようにしている (p.14, 33, 他)。
- 「図を check!」を随所に設定し、図表を読み取って考える課題を提示することで、生徒が主体的に取り組む、学習内容を理解しようとする取り組みにつながるように工夫した (p.21, 他)。
- 「考えてみよう」では、学習内容や自らの経験を踏まえて考察・推論できる問いを掲載し、科学的に考える機会をふやしている (p.12, 16, 他)。また、「考えてみよう+社会問題」では、生物に関わる社会問題について考える機会も設定している (p.209)。これらに取り組む場面では、生徒自らの考えに基づいて、対話やグループワークなどの活動を通して、学びが深まることも期待している。

(ICT の活用)

- 効果的なデジタル教材（動画、web サイトなど）にリンクする二次元コードを要所に掲載し、生徒の学習意欲を高めたり、理解をより深めたり、興味・関心を広げたりすることができるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
106-73	高等学校	理科	生物基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	生基 061-902	i 版 生物基礎 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本書の構成と各内容の記述にあたっては、次の点に配慮した。

前見返し

○前見返しでは、世界の動物を話題に取り上げ、学習内容に興味をもち、見通しを立てて学習できるようにした。

序章「探究活動の進め方」

○学習への導入として、「探究活動の進め方」を示し、教科書を通して探究的に学べるように配慮した。

巻頭資料

○正しく観察・実験が行えるように「顕微鏡の使い方」「プレパラートの作り方」「スケッチの方法」「ミクロメーターによる測定」などを掲載した。

部扉

○「人類の課題に挑む人々」では、職業及び生活と関連のある取り組みを掲載し、生物学が常に発展し、身近な生活をよりよくしていく有用な学問であることを紹介した。SDGs の目標とも関連づけ、社会問題について考える機会を設けるように促した。

第 1 部「生物の特徴」

【1 章 生物の多様性と共通性】

○様々な生物を比較する活動を通して、生物は多様でありながら共通性をもつことを見いだして理解できるように配慮した。

○生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解できるように配慮した。脊椎動物の四肢の有無、呼吸の仕方など幾つかの特徴を取り上げ、系統樹上でそれらの特徴が現れた位置を推測させるように配慮した。

【2 章 生命活動とエネルギー】

○ヒトの呼吸に関する資料に基づいて、代謝と ATP を関連付けながら理解できるように配慮した。

第 2 部「遺伝子とその働き」

【1 章 遺伝情報を担う物質】

○DNA の抽出実験を行い、生物が DNA を共通にもつことを気付かせるように配慮した。

○DNA の構造と塩基の割合に関する資料に基づいて、DNA の構造について考えを深め、DNA の特徴について見いだして理解できるように配慮した。

○DNA複製に関する資料に基づいて、塩基の相補性とDNA複製を関連付けて理解できるように配慮した。

【2章 遺伝情報とタンパク質】

○遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解できるように配慮した。

第3部「ヒトの体の調節」

【1章 神経系と内分泌系による調節】

○運動により心拍数がどのように変化するかについての観察・実験を行い、体内の環境の変化という情報が心臓に伝わり、心拍数を変化させる仕組みがあることを見いだして理解できるように配慮した。

○心拍数の調節に関する資料をもとに、心拍数の調節に内分泌系と自律神経系がともに関わっていることが理解できるように配慮した。

○食事の前後における血糖濃度と、血中のインスリン濃度やグルカゴン濃度の経時的変化を示す資料に基づいて、血糖濃度の変化とホルモン濃度の変化を比較し分析させ、内分泌系による血糖濃度の維持のしくみについて気付かせるように配慮した。

○血糖濃度の調節に関わるホルモンと自律神経系の働きを示す資料に基づいて、内分泌系とともに自律神経系の働きによって血糖濃度が維持されていることに気付かせるように配慮した。

【2章 免疫】

○マクロファージの動きに関する資料から、異物を排除する防御機構が生体には備わっていることを見いだして理解できるように配慮した。

○一次応答と二次応答における抗体産生量の変化を示した資料に基づいて、同じ疾患に二度かかりにくい理由に気付かせるように配慮した。

第4部「生物の多様性と生態系」

【1章 植生と遷移】

○身の回りの植物がどのような環境で生育しているのかについて観察を行い、光環境や土壌環境の違いによって生育する植物に違いがあることに気付かせるように配慮した。

○植生の遷移に関する資料に基づいて、年月とともに植生や光環境、土壌環境が異なることに気付かせ、遷移の要因を見いだして理解できるように配慮した。

○各バイオームの気象データに基づいて、植生の遷移とバイオームを関連付けて理解できるように配慮した。

【2章 生態系とその保全】

○土壌動物の採集を行い、種多様性と環境との関係について見いだして理解できるように配慮した。

○生態系の上位の捕食者を取り去った時の下位の生物の変化を示す資料に基づいて、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解できるように配慮した。

○湖の水質変化に関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解できるように配慮した。

○外来魚の移入前後の、在来魚の個体数の変化などの資料に基づいて、人為的攪乱が生物多様性を損なわせる場合があることに気付かせるように配慮した。

○道路建設により生息地域が分断された場合の、生物の行動や繁殖への影響に関する資料に基づいて、人為的攪乱の影響を少なくすることが、生態系の保全に重要であることを認識できるように配慮した。

○環境アセスメントに関する社会問題を掲載し、話し合いなどの活動を通して、生態系の保全の重要性について認識し、考える機会をもてるように配慮した。

巻末資料

○安全に観察・実験・調査が行えるように「実験の注意事項」「実験データの読み方と使い方」「野外調査のルールと注意事項」を掲載した。

○「生物学史年表」では、ノーベル賞受賞者をはじめとする国内外の科学者を取り上げ、生物学の発展の歴史を掲載した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
探究活動の進め方 顕微鏡の使い方 マイクロメーターによる測定		(1)ア(ア)㉞生物の共通性と多様性, イ	p.6～13	3
第1部 生物の特徴	1章 生物の多様性と共通性	(1)ア(ア)㉞生物の共通性と多様性, イ	p.14～33	7
	2章 生命活動とエネルギー	(1)ア(ア)㉞生物とエネルギー, イ	p.34～47	6
第2部 遺伝子とその働き	1章 遺伝情報を担う物質	(1)ア(イ)㉞遺伝情報とDNA, イ	p.48～73	8
	2章 遺伝情報とタンパク質	(1)ア(イ)㉞遺伝情報とタンパク質の合成, イ	p.74～91	5
第3部 ヒトの体の調節	1章 神経系と内分泌系による調節	(2)ア(ア)㉞情報の伝達, イ	p.92～112 p.126～127	7
		(2)ア(ア)㉞体内環境の維持の仕組み, イ	p.113～127	5
	2章 免疫	(2)ア(イ)㉞免疫の働き, イ	p.128～155	10
第4部 生物の多様性と生態系	1章 植生と遷移	(3)ア(ア)㉞植生と遷移, イ	p.156～181	8
	2章 生態系とその保全	(3)ア(イ)㉞生態系と生物の多様性, イ	p.182～193 p.210～211	5
		(3)ア(イ)㉞生態系のバランスと保全, イ	p.194～211	6
			計	70

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-73	高等学校	理科	生物基礎	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	生基 061-902	i 版 生物基礎 改訂版		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
8	探究活動の事例	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	1.00
21	分類と系統	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.50
25	生物の体を構成する物質	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	1.00
27	細胞小器官の模式図	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.25
28	電子顕微鏡で見る真核細胞の構造	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	2.00
31	細胞分画法	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.50
31	ミトコンドリアと葉緑体の起源	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.50
37	ATP と ADP の化学構造式	2	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.25
38	酵素の活性部位	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.25
39	酵素の特徴	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.75
41	発酵	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	0.50
42	光合成の詳細	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	2.00
44	呼吸の詳細	1	生物基礎(1)ア(ア)㊦	2.00
58	DNA の構造の詳細	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	1.00
62	DNA の複製の詳しいしくみ	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	2.00
65	染色体の構造と性染色体	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	1.00
67	染色体が移動するしくみ	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.25
68	減数分裂における DNA 量の変化	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.50
70	細胞周期の制御とがん	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.75
76	タンパク質の詳しい構造	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	2.00
80	rRNA	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.25
80	突然変異	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.25
81	遺伝情報の変化	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.50
82	転写と翻訳の詳しいしくみ	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	2.00
85	パフの位置の変化	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	0.25
86	ヒトのゲノムマップ	1	生物基礎(1)ア(イ)㊦	2.00
88	細胞分化の技術と革新	2	生物基礎(1)ア(イ)㊦	1.00
89	ゲノムとその応用	2	生物基礎(1)ア(イ)㊦	1.00

97	血液凝固の詳しいしくみ	2	生物基礎(2)ア(7)㊦	0.50
108	ホルモンが作用する詳しいしくみ	1	生物基礎(2)ア(7)㊦	1.00
115	インスリンが作用するしくみ	1	生物基礎(2)ア(7)㊦	0.50
133	自然免疫で異物を認識するしくみ	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	0.25
133	炎症の詳しいしくみ	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	0.50
135	獲得免疫に関わる細胞が異物を認識するしくみ	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	0.75
139	抗体の構造	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	1.00
141	血液型	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	1.00
145	インフルエンザウイルスとワクチン	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	0.50
146	ヘルパーT細胞に感染した HIV のようす	1	生物基礎(2)ア(4)㊦	0.25
147	アレルギーのしくみ	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	0.50
150	臓器移植と MHC 抗原	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	1.00
151	MHC 抗原の働きと TCR・BCR との関係	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	1.00
152	がんと免疫	2	生物基礎(2)ア(4)㊦	1.00
184	3つの生物多様性	1	生物基礎(3)ア(4)㊦	0.50
187	生産速度ピラミッド	1	生物基礎(3)ア(4)㊦	0.25
188	物質の循環とエネルギーの流れ	1	生物基礎(3)ア(4)㊦	1.00
193	間接効果による種間競争の緩和	1	生物基礎(3)ア(4)㊦	0.25
195	中規模のかく乱	1	生物基礎(3)ア(4)㊦	0.25
205	個体群の絶滅	1	生物基礎(3)ア(4)㊦	1.00
合計				39.25

(備考) 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。

- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
- ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2